



孝子
賜醴
泉

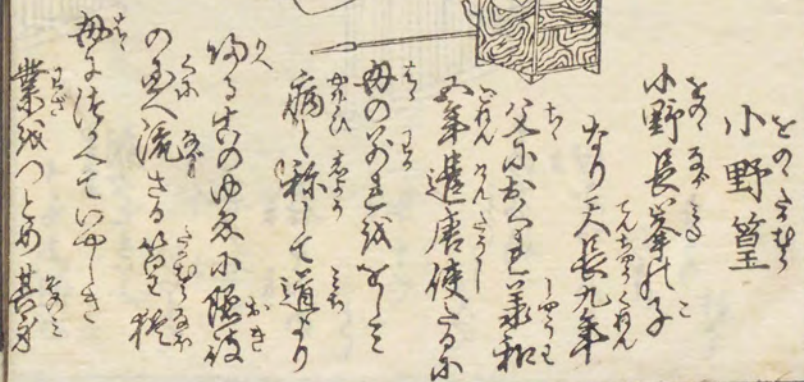


中



孝子

七



小野篁

小野長兼このの ながかね

なり 天長九年

父ふかきと義和

子孫遷唐使方不

母のふき紙すそ

病稱之道なり

ゆき
このゆき小強は

のふし流さるる草花

抄子法之元中

業紙のよめ甚ぞ

わがまゝにすべし

孝乃心之經也

たふん方其

羽衣年古歸され

參議從亡位不

叙世に及ぶ

う
海
う
う

朝の大儀と

あふぐは



丹生弘吉

丹生弘吉の民なり
 父のいけなせかき
 母の孝なるて國人ふあえ
 たりり死ねんかき
 先父の墓所ふあえ
 涙を流し経る痛
 秘人ふあえ
 母の公も
 慰めて出
 ゆたたり



されば
 その望
 名心
 新
 人



水の人は田舎
 水損旱稼の愁あり
 密も入らざりけり
 仕事月程にせり
 百出さき
 その田舎
 今も
 のわじとなり

大 江 舉 周

わやふのすまひ
大匠衛子とてあや

赤深瀉門あり 脊周あり 病也

頼すや見えけは

あまふ
赤條
下
ひ

すまふ 中へ
石香小諸



子^この命^{いのち}にかかると

祈^{こころ}望^{のぞ}々々^{々々}ふ

かゝるを祈る金に可なり

此の由りてまゐるなり

とて
とてま
とて
とて
とて

うぢまゝを熱く母をいふべ。

20
之
之
之

卷四

大木がどろき

いそ
すまう
あきふさうでくその海

日が命とて門をぬきけり
 と

身とあづからぬまのせが

明神ありて之を力にす

あまのふたが

なりけり





世々の世々
 宗像朝臣 社皇
 といふ人妻となり
 又社皇の妻なり
 又社皇の妻なり
 又社皇の妻なり

二進にす
 天長
 天長
 天長



難波部安良賣

流流の人より幼お
 より父母に孝と法
 悲しき人より十六才なり



位二級で
 陽つ
 陽つ

橋氏妙仲

橋氏妙仲は、逸勢を以て、
後夏の西へ流され、娘をいひつゝして

父の仇とて、此と慕ひつゝして

殺害の武士とありて

けしき、娘をいひつゝして

体中、夜く終ふ

かひは、さぬ逸勢

遠く、いふやうに

娘は、おれに、あつて

その、おれに



元とあり、妙仲と

裏に、おれに、あつて

おれに、おれに、あつて

十年、おれに

常、おれに、あつて

逸勢、おれに、あつて

と、おれに、あつて

おれに、あつて

おれに、あつて

おれに、あつて

伴直家王

あはれ
安房の玉のちの歌れ
民由て親ふ考り方りけり
父母終りけりやふふふふ
今もあはれこの世を
歌ふくらに二親の海成
木をえ作りけり
所ふあはれなり

別々各々とも

終りて
作之代
すうの
はせお在り
時ふふふ
所のふふ
おのひとふ
此ふはひふ内裡ふ
ふふふふ
永く事負ふふふ

ふふふふ

